

国語科学習指導案

授業者 志田 孝敏

- 1 日時 平成23年11月25日（金） 2校時
- 2 場所 国語教室01
- 3 学年 第3学年A組（生徒数 35名）
- 4 単元名 情報を発信する～府中学園新聞を作ろう～
「新聞の特徴を生かして書こう」（光村図書）

5 単元について

（1）単元観

本単元は、主として中学校学習指導要領（平成20年）国語科第3学年「B 書くこと」の次の内容を受けて設定されている。

「B 書くこと」

（1）ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。

本単元で付けたい力は、適切な話題を選び、伝えたいことを明確にし、構成を工夫して記事を書く力である。

この単元では、「取材を繰り返しながら自分の考えを深めることができる」ように普段生活している府中学園に関する情報を様々な角度から検討し、考えを深めていく。そしてそれらの課題を表現するにふさわしい、文章の形態や構成の工夫をすることで学園新聞をつくり、情報を発信するものである。

この単元は大きく3つの部分から構成されている。まず、同じ事実を取り上げた2つの新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取る学習を行う。同じ対象であっても、事実をある視点で取舍選択し加工された上で記事が書かれていることに気づく。次に、取材したことを持ち寄り、題材と伝えたいことを明確にした記事を書く。事実が1つであっても視点が違えば取り上げる中身も当然違ってくる。見出しを考える活動を通して意図を明確にしていく。そして、新聞の紙面構成を工夫し、自分たちが生活してきた府中学園を紹介する新聞を作る。題と文章の形態を選択して、読み手に伝えたい内容を明確にして新聞作りを行うのである。

単元の前半部で使用する教材は、比較する観点が明確にされており、記事の違いをつかみやすい。生徒が記事を書く際に振り返り確認するのに好都合である。

（2）生徒観

生徒はこれまで、国語や総合的な学習の時間等で、話題を選び文章を構成した新聞作りの学習を経験してきた。しかし、制作物を見ると、色使いや配置など引きつける構成はできているものの、視点が似通ったり、コメントが似通ったりと、題材を短絡的にとらえたステレオタイプの記事が多いことに気づく。自分（たち）の伝えたいことを明確にして、取材や資料を工夫して記事を書く力は不十分であるといえる。また、文章の種類にも使い分けの工夫が乏しいという課題がある。

今年度の7月、総合的な学習の時間に行った「ものづくり体験学習」を、生徒2、3名のグループで壁新聞にまとめている。その分析をすると次のようになる。

- ①【伝えたいことが明確である】
 - ・見出しと記事の中身に関連が認められるもの…23%
- ②【伝えることの視点が他のグループとは違う（深まり・視点）】
 - ・「子どものようす」「おもちゃ」「感想」「一日の流れ」以外の記事を工夫してまとめているグループ…15%
- ③【文章の種類に変化がある（形態）】
 - ・「である調」で書いた記事がなく、説明と感想が混じった文章で書かれた記事がほとんどである。
- ④【見出し、リード文など新聞の構成の特徴をつかんでいる】
 - ・見出しをつけたグループ…92%
 - ・写真に説明をつけたもの…61%

新聞の構成を生かすように、見出しやリード文などの工夫は見られるが、文章との関連がうすく、見出しの役割を十分果たしているとはいえない。本単元でつけたい力である「適切な話題を選び、伝えたいことを明確にし、構成を工夫して記事を書く力」が十分身につけているとはいえない。

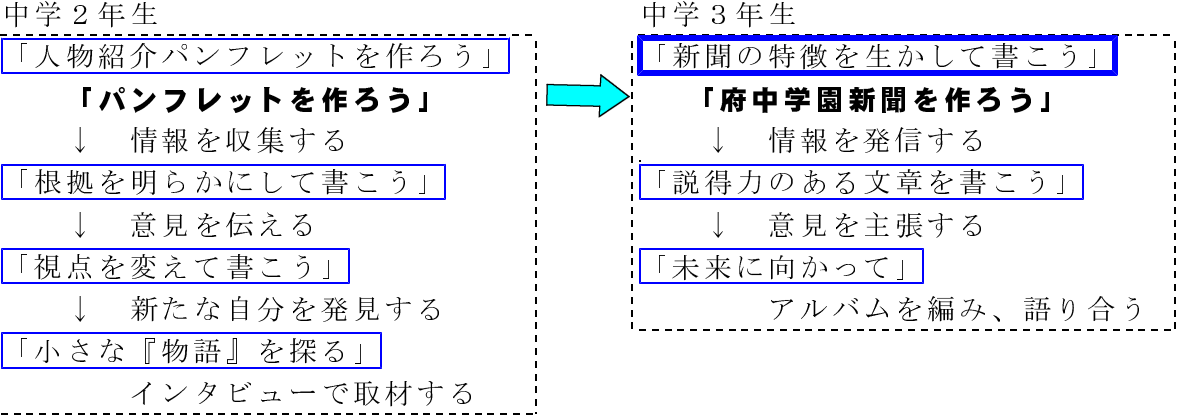
(3) 指導観

指導に当たっては、まず、「書き手の意図」をキーワードとし既習を思い起こし、報道の重要性を確認させたい。新聞の紙面構成の特徴とともに「見出し」や「リード文」などの役割を習得させたい。次に、同じ話題を扱った新聞記事を読み比べ、書き手の意図が視点の違いに現れることを把握させたい。その際、様々な視点で比較させるために小グループを利用した活動を仕組み、新聞作りに必要な力を習得させたい。この小グループは、記事を書く場面でも活動させたい。

そしてその習得した力を「学園新聞」作りに活用させたい。これまでの学習を生かし伝えたい内容を明確にして記事を書けるようにしたい。総合的な紹介文を書くのではなく、紙面構成を検討し話題を絞るとともに、伝える視点を検討する中で記事を推敲させたい。

一つの事柄についての情報を比較し、その中から伝えたいことを絞り、意図を明確にして書くことができるように、言語活動「府中学園新聞を作ろう」を設定した。これは中学校第2学年の活動例「イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと」を発展させるとともに、中学校第3学年の活動例「イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること」を生かしている。

6 単元・内容の関連



7 単元の目標

- 新聞作りに関心を持ち、内容や意図を明確にして、「府中学園新聞」を作ろうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎様々な視点から取材し、意図を明確にした記事を構成して府中学園についての新聞を小グループで制作することができる。
(B書く能力(1)ア)
- 紙面構成の特徴や記事の各要素の役割を理解し、語句を効果的に用いて記事を書くことに役立てることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(イ))

8 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
府中学園新聞を作ろう		
・新聞の特徴に関心を持ち、内容や意図を明確にして「府中学園新聞」を作ろうとしている。	・取材を通して適切な話題を選び、伝えたいことを明確にして紙面構成を工夫して新聞を制作している。	・新聞の紙面構成の特徴や記事の各要素の役割を理解し、語句を効果的に用いて新聞作りを生かしている。

9 単元指導計画(全7時間)

次	活動目標	時間	評価規準	評価の観点			評価の方法
				関 意 態	書 く	言 語	
出 会 う	新聞作りのために紙面構成と役割について知る。	1	興味を持って新聞の紙面構成や役割について調べている。	○			ノート 観察
	同じ出来事を扱った新聞2紙の記事を比べ、視点や書き手の意図によって、伝えることが違うことに気づく。	1	同じ出来事でも視点や書き手の意図によって伝えることが違うことに気づいている。			○	ノート
追 究 ・ 表 現 す	取材してきたことをもとに題材と伝えたいことを決め、記事を書く。	2 (本時 2/ 2)	取材をもとに題材と伝えたいことを決め、記事の構成を書く。 視点や書き手の意図を明確にした見出しを書いている。		◎	○	ノート ワークシート
	意図を明確にした上で、5W1Hが整った記事に書き直し、見出しをつける。	1	伝えたいことを明確にした記事に書き直し、見出しを書いている。		○		ワークシート
生 か す	グループで紙面構成を考え、記事に適した文章を書き、新聞を完成させる。	2	文体の違いを意識した記事を構成している。 グループで推敲して新聞を完成させている。		◎	○	制作物(新聞) ノート

10 本時の目標

視点や書き手の意図に基づく記事の見出しを考え、書く。

11 準備物

新聞記事をもとにしたワークシート ポイントを記すカード マジック
見出しを書く短冊シート

12 本時の評価規準

記事の視点や書き手の意図をもとにした見出しを書いている。

13 学習の展開 (本時 4 / 7)

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点 (○) 評価及び評価方法 (※)
つかむ 5分	1 紙面構成のポイントを確認する。 2 課題提示	○新聞の紙面にはどう呼ばれる部分があったか。 ・「見出し」「リード文」「本文」 ・写真と「キャプション」 ・コラム ・社説	○前時に行った活動と関連づける。
		自分たちの記事づくりに生かせるように、記事の見出しを考えよう。	
考える 10分	3 記事を読み比べそれぞれに見出しをつける。	○記事を読み、それぞれに見出しをつけよう。 また、その見出しにした理由をシートの余白に書こう。	○「何を伝えたいのか」というヒントをもとに考えさせる。
深める 30分	4 小グループで検討する。	○小グループで交流し、最適な見出しを考えよう。その際、以下の作業を行い、なぜその見出しにしたのか、グループで考えよう。 ・それぞれの筆者の伝えたいことを枠で囲もう。 ・記事の書き方の違いが分かる部分を見つけよう。	○「比べる 二つの記事の伝えたいことを比べる。」
	5 他のグループの考えから学ぶ。	○小グループで決めた見出しを理由をつけて発表しよう。 ・一番伝えたいことをまとめた。(記事の最初、繰り返し、写真の扱い など) ・印象強い見出しを考えた。	○できるだけ多くのグループに説明させる。
	6 実際の見出しから意図を考える。	○二つの見出しは記事の何の違いによるものか。 ・立場の違い。(視点の違い)	○「比べる 自分たちのグループの根拠と、他グループの根拠とを比べる。」

	7 自分の記事に見出しをつける。	<ul style="list-style-type: none"> ・主語の違い。 <p>◎学んだことを生かして、前時に書いた自分の記事に見出しをつけよう。</p> <p>○見出しを付けることのできなかつた理由を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番言いたいことがはっきりしていなかった。 ・視点が明確でなかった。 	※評価規準及び評価方法 伝えたいことを明確にした見出しを書いている。 (発言・ワークシート)
まとめ 5分	8 学習のまとめをする。	○効果的な見出しを書くために、記事を書くときにはどういうことに気をつけるか、ノートにまとめよう。	※評価規準及び評価方法 見出しを付ける時には、記事の意図を明確であることが大切であることをまとめている。 (ノート)
	9 次時の学習を知る。	○次回は記事を書き直す。取材が不十分なグループは各自で調べておこう。	

・効果的な見出しを書くためには、何を伝えるのか、視点は何かなどを明確にした記事を書く必要がある。

14 板書計画

府中学園新聞を作るときに生かすこと

- 記事を書くときには
- 記事で何を伝えるのか、視点は何かを明確にする。
- 立場を決め、主語に気をつける。

伝えたいこと

なぜ、この見出しになったのか

○ ○ 「 」 ・ ・ ・ ・ 「 」	A の見出し
○ ○ 「 」 ・ ・ ・ ・ 「 」	B の見出し

ねらい

府中学園新聞を作ろう

自分たちの記事づくりに生かせるように、記事の見出しを考えよう。

レディネステスト

○総合的な学習の時間における、壁新聞の評価。

ポストテスト

①制作した「府中学園新聞」で評価する。

②テストによる評価。

「次の文章を読んで、自分の体験等の根拠を示して 300 字程度の意見をそれぞれ書き、見出しをつけなさい。」

近年コンビニエンスストアはその利便さから私たちの暮らしに根付いてきている。しかし、その 24 時間営業については、電力の問題や地域の風紀といった点からの賛否両論があることも事実である。

課題 「コンビニエンスストアの 24 時間営業について、賛成と反対それぞれの立場から意見文を 300 字程度で書きなさい。」

伝えたい内容を明確にして、府中学園新聞を作ろう。

出会う
(本時2時間)

新聞の紙面構成の特徴をつかむとともに、視点や書き手の意図による表現(書き方)の違いをつかもう。①②

新聞作りのために紙面構成と役割について知る。

同じ事柄でも視点や書き手の意図によって伝えることが違う事に気づく。

「見出し」「リード文」「本文」など、それぞれ役割の違いがあるんだ。①

記事の種類によって文体や書き方に違いがある。①

同じ出来事でも、何を伝えるかによって記事の印象は違って来るんだなあ。②

記事を書くときには、いろんな視点から出来事取材して伝えることをはっきりさせればいいんだ。②

追究・表現する
(2 / 3 時間)

記事の題材を決め、伝えたいことを明確にして記事を書こう。③④⑤

取材してきたことをもとに題材と伝えたいことを決め、記事を書く。

意図を明確にして、5W1Hが整った記事に書き直す。

いろんな情報から伝えたいことを絞ることができた。③

伝えたいことがみんなにきちんと伝わるだろうか。③

見出しによって記事で伝えたいことがはっきり分かるなあ。④

友だちから視点を指摘してもらって伝えたいことがはっきりした。⑤

何を伝えたいかをはっきりさせたので、記事の意図が明確になった。⑤

生かす
(2 時間)

小グループで協力して府中学園新聞を完成させよう。⑥⑦

小グループで紙面構成を考え、担当部分に適した文章の形態に記事を整え、新聞を完成させる。⑥⑦

小グループで上手に紙面構成を考え、文体の違いを意識して記事を書くことができた。⑥

府中学園のすばらしさを伝えることができる記事を書き、新聞を作ることができた。⑦

自分たちのグループとは違う見方や記事のまとめ方があり、楽しかった。⑦